

第5回 大山崎町地域創生有識者会議

- 日 時 平成28年1月28日（木）14：30～
- 場 所 大山崎町役場3階防災会議室
- 出席者 ○有賀正晃委員、上垣健一委員、中島大介委員、西 正委員、◎深尾昌峰委員、
福田利雄委員、藤井恵美子委員、藤澤正典委員、古川哲也委員、南出高志委員、
以上10名
- （注）◎は座長、○は座長代理
-

1. 開会
 2. 議事
 - (1) 人口ビジョン（案）について
 - (2) 総合戦略（案）について
 - (3) その他
 3. 閉会
-

1. 開会

【事務局】

それでは定刻となりましたので、只今から第5回大山崎町地域創生有識者会議を始めさせていただきます。

開会にあたりまして、深尾座長から御挨拶をお願い致します。

【座長】

今日で最後となります。最終的な取りまとめとなり、大きな変更は難しいとは思いますが、忌憚のないご意見をいただけたらと思います。よろしくお願い致します。

【事務局】

ありがとうございました。引き続き本日の出席状況を報告します。4名の委員が欠席です。本日は10名の出席となります。

また、本日の傍聴は、一般傍聴はございません。報道関係の記者が傍聴を希望しておりますので、傍聴の許可よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは傍聴者の方にご入室いただきます。

～傍聴者の入室～

【事務局】

これより座長に議事進行をお願いいたします。

2. 議事

(1) 人口ビジョン（案）について

【座長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。この間、送付いただいた人口ビジョン、総合戦略について、前回からの修正点を含めて事務局から説明をお願いします。先ず人口ビジョンの説明からお願いします。

【事務局】

当日配布資料（正誤表、説明用補足資料、京都府総合戦略概要版）の説明
大山崎町人口ビジョン（案）の説明（資料1、参考資料1）

【座長】

ありがとうございます。前回の議論を踏まえて忠実に修正されています。人口増の対応について、“人口減少到来”は町として記載しないという見識での修正もその1つです。全体の感想、意見等あればお願いします。いかかでしょうか。

【委員】

参考資料1の7ページの「視点」について、“住んでもらう”という言葉が繰り返されており、重複していて同じように聞こえます。もう少しそれぞれの「視点」の狙いを明確にしてはどうか。

例えば、視点2は「定住意識」、視点3は「ふるさと意識」を高めるということだと思います。それを視点の説明文で記述してはどうか。

【座長】

確かにそうですね。そこは挿入しましょう。

また、課題1のタイトルについて「アメニティ不足」とありますが、本当に実現できるかと思ってしまう。それよりも、「大山崎町ぐらし」を創出して維持発展していくことを強調した方がよいのではないか。本文では、調査結果から事実として述べるのはよいですが、アメニティ不足の解消ではなく、「解消に努める」などとした方がよいと思います。アメニティ不足の解消といってしまうと、病院の問題なども出てくるのでしんどくなります。

「大山崎町ぐらし」の創出は、住民が“お客さん”ということではなく、みんなで創出していくという文脈からすると、前に出した方がよいと思います。

【委員】

7ページの視点2に、「若い世代が希望をもって生きることができる」とありますが、「生活できる」という程度の表現の方がよいのではないかと。

【座長】

また、後ほど意見を述べる機会がございますので、お気づきの点があればその時にお願ひします。それでは、●委員と私からでた意見について、修正の取り扱いを事務局の方で願ひします。

(2) 総合戦略(案)について

【事務局】

当日配布資料(説明用補足資料)の説明

大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の説明(資料2、参考資料2)

【座長】

ありがとうございます。前回までの議論が落とし込みされていて、配列や表現が修正されています。これからご意見をいただきますが、本編(資料2)のページ数で該当箇所を述べてください。

【委員】

全体として前回より見やすくなったと思います。ただ、重要業績評価指標の目標値の端数は細かすぎるので、丸めてよいのではないかと。例えば、目標値が“325人”や“53団体”と細かいと、逆に何か意図があるのかと感ずる。数値が目立ってしまう。目標なので、高めの数値、実現可能な数値といろいろあってもよいとは思ひます。

【事務局】

総合計画に記載した数値目標から算出しているため、数値が細かくなっています。ただ、目標値としては丸めてもよいと思ひます。

【座長】

全体的にKPIを整理して見やすくなりましたが、数値が細かすぎるので、丸めた方がよいかもしれません。

その他何かご意見はありませんか。

【委員】

先ほどの意見にも関連すると思いますが、KPI について伺いたい。22 ページの出生数全体に占める第3子以降の割合の基準値が17.4%で、目標値が18%に設定されています。大山崎町の状況を把握している訳ではありませんが、これでは横ばい程度だと思います。子どもを増やして、人口を増やしていくという目的からすると、意欲が少し足りない感じがします。18%の根拠は何でしょうか。

【事務局】

京都府の成果指標を参照しています。京都府の基準値はもう少し低くなっていますが、平成31年度の目標値との差が0.6%となっています。これとリンクして、本町の目標値を設定しています。

この間、出生数の割合をみますと、第1子が半分ぐらい、第3子は17.4%。今後、本町に引越された方を想定しても、第3子の割合を20%以上とするのは厳しいという議論をしました。そして、京都府の成果指標に合わせた形で、本町の目標値を18%に設定しました。

【委員】

延長保育の利用者数が基準値の68人から目標値65人に減少していますが、減った方がよいということですか。

【事務局】

現在、本町の子ども（0～2歳）の数は新聞などでも増えていると報道されているところですが、本町の子ども・子育て支援事業計画では、将来的に子どもの人口が減少していく中で、人口が減少したとしても、保育の枠、受け皿として65人をキープしていくということが計画で掲げられています。

また、一時預かり保育の利用者数も、幼稚園、幼稚園以外でそれぞれ目標値を設定していますが、こちらの数値も子ども・子育て支援事業計画で掲げられている数値となります。

目標値に掲げた数値自体は減少しても、子どもの人口が将来に向かって減少する中で、これぐらいは維持できるよう努力するという意味の成果指標となっています。

【座長】

それが伝わるようにした方がよいと思います。例えば、利用者数の割合であるとか。単純に普通の成果指標の見方をしてしまうと、数値が減少していると素朴に疑問が生まれます。数値目標の増加・減少に価値が含まれるため、今いただいたご説明が分かるように反映することが重要だと思います。社会的ニーズを満たすために必要な目標数値であるという趣旨は分かりました。

【委員】

基本目標3の指標について、観光入込客数、観光消費額が指標として掲げられています。平成25年の1人当たり観光消費額246円です。今、記載されている目標数値から計算すると240円に落ちます。この目標数値でよいかという感じがします。何のために観光消費額を伸ばすかといえば、雇用を創出するためです。その目的からいうと、これでよいかという気がします。

【深尾座長】

確かに240円というのは衝撃的でした。もうちょっと高めでよいのではないのでしょうか。

【事務局】

目標数値は総合計画の成果指標に合わせおりますが、検討します。

【座長】

他、いかがでしょうか。

【委員】

22ページの施策①出産・子育てがかなう環境づくりの記述では、「子育てするなら大山崎」ということを押し出してよくなったと思います。子育てや学力で数値目標を示すことは難しいので、子育て世代が多くなり、保育所が足りなくならないよう働きやすい環境を整備するなど言葉で表した方がよいと思います。大山崎町は子育て、教育環境を整えることが人口減少を防ぐ大きな施策ということが分かりやすくなりよかったです。

【座長】

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

【委員】

27ページの施策③観光の振興による雇用の創出のところで、25ページの観光のKPIが再掲されていますが、再掲の必要があるのでしょうか。両方が切り離せないという考えも分かりませんが、あえて、再掲しているということでしょうか。再掲しない整理はできないということでしょうか。

【座長】

再掲しなければならぬということではないと思います。施策に関連付けたKPIだけでよいので、再掲しないという整理もここではできます。

【委員】

結びつきの強い KPI のみ記述するというのもありかと思います。例えば、卸・小売業の事業所数や観光協会の設立など。

【座長】

見せ方の問題です。施策を際立たせるために KPI を絞るという考え方をするか、観光振興と雇用の連携を強調するならば再掲するという考え方をするかということだと思います。他にご意見がなければ、提案いただいたような形で整理した方がよいかもかもしれません。

逆に、観光振興による雇用創出を直接示せる指標があればいい。外国人宿泊数の倍増、卸・小売業の事業所数など、もう1つぐらいあればいいと思います。1人あたりの観光消費額もここで記述した方がよいかもかもしれません。

再掲するにしても、違う文脈なので、ご意見のような整理が必要かもしれません。他、いかがでしょうか。

【委員】

23 ページの ICT 機器の整備の目標値と基準値の関係がよくわからないので、お教えいただきたいのと、体験活動・学習の協力事業所の基準値の意味合いをお教えください。

【座長】

「事業所数」は「協力事業所数」のことでいいですか。

【事務局】

はい、そのとおりです。

【座長】

ICT 機器の整備の方はいかかでしょうか。普通教室が 51 室あって、現在、ICT 機器が整備されていないという意味であれば、現状の表記では基準値になっていないことになりま。 「0/51 室」という記述にすればよいと思います。

【委員】

現在、特別教室には整備されています。なぜ、普通教室に必要なのかということの方が重要だと思います。そのことを記述してはどうでしょうか。

【座長】

ICT 機器の整備が特別教室ばかりでなく、普通教室にも今日必要になってきているという

文脈かと思えます。そのことが記入できればよいと思えます。説明文にそのことを少し記述した方がよいでしょう。確かに、学力、体験活動の記述はあるので、ICT 機器の整備を記述すればバランスがよくなります。

【委員】

最後の委員会ということで、これまでの議論が反映され、大分よくなってきた印象があります。鉄道事業者の立場からは、観光に大変興味をもっております。観光振興による雇用創出は重要なことと考えています。ところで、語句の確認をさせてください。25 ページの「広域連携観光参加者」は何のことでしょうか。

【事務局】

阪急電鉄と連携した「まち歩き事業」がございます。参画の市町村がそれぞれの役割を担って、それぞれ PR パンフレットを作成しています。平成 26 年度、この事業で本町に訪問した方が 270 人となっています。また、本事業による訪問者は毎年、捕捉しております。

【委員】

私どもも「ふれあいハイキング」というものを行っておりますので、ご協力お願いします。

【座長】

他、いかかでしょうか。

【委員】

成果指標に「歴史資料館入館者数」がありますが、“ハコもの”として、もう一つの目玉施設である大山崎山荘美術館の入場者数がありません。大山崎山荘美術館は本町の重要な資産ですので、成果指標に入れてはどうでしょうか。

【委員】

私も見当たらないなあと思いつつ読んでおりました。ただ、年度ごとの数値目標は、その年の企画展などにより入場者数は影響を受けるため、一概には言えません。平成 27 年の実績は計画を上回りましたが、継続して一定して増加していくものではありません。また、アサヒビール本体の経営指標にも左右されるますので、数字で示すことはむずかしいです。

そのため、数字の目標値は立てづらいが、連携していくという目標は、現在も実施していますし、今後も重要ですので、何らかの形で示すことは必要と思えます。

【座長】

確かに KPI で示すことは難しいですが、重要な資産なので説明文の中で記述してはどうでしょうか。

他、いかかでしょうか。

【委員】

25 ページの「主な取り組み内容」で「観光インフラの整備」とあります。各論になるかもしれませんが、どう整備するかなど、どこまで記述するか、掘り下げるかということが重要と思います。

【座長】

個別政策で議論することは必要だと思いますが、観光インフラについて、現在お気づきになられていることがあれば、お願いします。

【委員】

大型バスの駐車場が、少ないという問題があります。町の端の少し離れたところにありますが、お客様からお問い合わせいただいて説明をすると、断られることがあり、機会ロスが生じています。

土地の問題もあり、実現できるのであれば既に実現できているはずで、無理難題は承知しています。

【座長】

確認ですが、25 ページの基準値の 16.3 台は月平均の数値ですか。

【事務局】

はい。そうです。

【座長】

この駐車場が、町のはずれにある駐車場のことですね。個別政策化するときには議論いただきたい。現状のインフラが活用しにくいいため機会ロスが生じているのは大きな問題です。やれることは早急にやることが重要です。

【委員】

大山崎山荘美術館の人気の理由は、送迎バスが出ていることも 1 つの理由です。当館のご厚意によるもので、大変ありがたく思っています。ただ、時間帯によりバスがなくなり、そのことにより美術館に行くのを止められる方もいます。身体障がい者向けのバスはあります。

また、人気のある大山崎山荘美術館を經由した形で、他の地域の観光につなげていくことも重要と思います。それには、日常生活の不便さの解消も念頭に、観光インフラの整備する必要があります。トイレが少ないと思います。

【座長】

新たなルートの開発も、インフラ整備と関連させて考えることが重要ということだと思います。高齢社会への対応や障がい者への対応など、人口構造の変化に対応したインフラ整備が必要なのかもしれません。

【委員】

バリアフリーの問題はあります。利用者が多いところでは、トイレや授乳室が必要です。現在、全国の観光地では積極的に整備を進めています。喫煙所ではJT、トイレではTOTOと連携して進めているところがたくさんあります。いろいろなアイデアがでてきています。

【座長】

例えば、大山崎町であれば、美術館をコンセプトにしたトイレなどのアイデアもあっていい。お金がないなら、工夫する。JTなどの外の力を活用するのも1つのアイデア。今、国にも頼れない状況で、民間の知恵を活用していく。みなさんが、いいイメージをもっているものを利用したインフラ整備が重要だと思います。いいものがたくさんある訳で、みなさんで是非知恵をしばって、連携してチームを組んで進めていってもらいたいと思います。

【委員】

教育といった大山崎のいいところを前面に打ち出し、強調していいと思います。不満なところもあるかと思いますが、子育てといったいいところを広報してアピールして普及していくことが重要ではないかと思います。

【座長】

重要なポイントだと思います。みなさんがいいと思っている訳ですから、そのことを広めていく。私の大山崎町に住むゼミ生に聞くと、大山崎町はいいところだと答えました。

また、将来、自分の子どもを大山崎町で育てたいかと質問すると、保育所も学校も素晴らしい是非、大山崎町で育てたいと答えました。それを聞いたとき、大山崎町は本当に良い所なのだと感じました。こういったこと、言葉をどんどん一人歩きさせた方が良いと思います。事実なのだから自信をもってPRしていくことが重要です。

大山崎は山間部などの人口減少と文脈が異なる訳で、長岡京市、向日市、島本町など、どこに住むか迷っている人に来てもらわなければなりません。選ばれるまちになるという

ことだと思えます。教育力が高いことを強調して、選択されるようにならなければなりません。教育力が高いことは裏打ちもありますし、それを地域の子ども会ネットワークなどで引き延ばしていくことが大切です。

【事務局】

今のご意見に関連して、現状の取り組みの1つをご紹介します。本年度は先行型交付金で人口ビジョン、総合戦略の策定に加え、観光に関わる交付金での取り組みを実施しています。その所管課の担当者が、今回4種類のPRポスターを作成しました。その内、3種類には、子どもさんを登場させています。1つは天王山を背景に公園で撮影したもの。1つは、親が子どもさんを肩車して、新幹線を入れて撮影したもの。これは、“撮鉄”にもアピールできます。1つは山崎聖天のところの階段で、おじいちゃんと子どもさんを撮影したものです。これらは、担当者自身が現地に出向きカメラで撮影したもので、子育てと天王山をPRしたポスターとなっています。

【座長】

大山崎町で育ってきた人で、大山崎町をいいと思う人がいる訳で、いい意味の噂を広める。事実があるので、それをうまく使っていくことも重要だと思います。

それでは、本日ご意見いただきましたKPIの記述の修正や、ICT機器の整備の意味合いが伝わるような説明文の修正は、事務局の方で対応いただくことにします。

他、いかがでしょうか。特にご意見がなければ、「(3) その他」に移ります。

(3) その他

【事務局】

3点、事務局から申し上げます。

1点目は、今後の予定です。総合戦略の29ページに、進捗管理について記載していますとおり、PDCAサイクルを回しながら重要業績評価指標の達成度により検証して参ります。また、30ページに資料編として示しています「大山崎町地域創生有識者会議設置要綱」第2条第3項に成果検証の検討について定められておりますので、引き続き成果検証をお願いいたします。

そこで、検証会議の開催時期についてであります。毎年度、実施事業の決算数値が事務的に確定します8月頃を予定しております。

また、委員の皆様それぞれのお立場におかれまして、人事異動もあろうかと思いますが、その際にはご後任の方に、引き続き御就任頂けますようお願い申し上げます。

2点目は、ご審議いただいた人口ビジョン、総合戦略につきましては製本出来次第、お届けしたいと思えます。また、アンケート調査に御協力頂いた事業所様へもお届けする予

定です。

3点目は、本戦略に係ります国の取組状況について、ご報告をさせていただきます。新聞等で報じられていますとおり、平成28年度当初予算に「地方創生の深化のための新型交付金」の創設に係る予算を、昨年秋の時点では1080億円で計画されていましたが、今国会では1000億円で提出されているところであります。更に、この新型交付金につなぐ交付金としまして、「一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応」とあわせて、各自治体の取り組みを加速化させるため「地方創生加速化交付金」として1000億円の補正予算が、今国会に提出されているところであります。この交付金は、国の負担が10/10ということですので、本町も事業申請に向けての準備を進めているところであります。

【座長】

ありがとうございます。これで議事は終了とします。事務局にお返しします。

【事務局】

それでは、これもちまして、第5回大山崎町地域創生有識者会議を閉会とします。

以上